

「二期一会を心に」

合唱指導
角地 直子

大正フロイデの皆さん、いつも温かい言葉や、お心遣いがありがとうございます。

大学時代からの親友の熊本さんに声をかけて頂き、一緒に緒させて頂くようになって、早五年の月日が過ぎたのです。つい昨日のようにも思えますし、随分昔のように感じたりも致します。

練習場に行けば、五年前と変わらず、元氣一杯、やる気満々の皆さんが、笑顔で迎えて下さいます。思わず私も笑顔になります。

どうすれば、もっと良い音楽が作れるのか、皆さんが、少しでも充実した時間を過ごせるのか、思考錯誤しながらも、私自身、学ぶ事も多くあり、楽しく指導させて頂いております。

私は、歌が大好きです。歌うことが大好きで、特に人と声を合わせる合唱が大好きです。

そして、大正フロイデには、私に負けず劣らずの合唱大好き人間が集まって居られるのですから嬉しくなります。声という素晴らしい楽器は、

一人一人の大切な宝物です。益々磨きをかけて、出なかった声を、表現出来なかった音を、自分の物にして下さい。ワクワクしませんか？

昨日より、良い声の自分。合唱でしか味わえないであろう、独りでは、たどり着けない満足感。

味わった皆さんは、もう引き返す事は出来ないはず。前に向かって進むのみ。

私も、及ばずながらお手伝いさせて頂きますので、宜しくお願い致します。

また、先日の記念演奏会お疲れ様でした。皆さんの頑張りが、演奏会の大成功につながりましたね。

おめでとうございます。私にとっても、一生忘れれる事の出来ない演奏会となりました。

大切な方々に支えて頂いて、レクイエムを歌えて本当に幸せでした。

私事になりますが、この八月に亡くなった父が、「良かったね」と声を掛けてくれた気がしました。

心配掛けっぱなしの末っ子でしたので、ほんの少しは安心してもらえたのかも知れません。

あの日、あの時、あの場所に居合わせて下さった皆さんに感謝しております。

【二期一会】今この瞬間を大切に、全ての出逢いを愛おしんで、日々過ごしたいと思えます。

皆様、今後とも宜しくお願い致します。

「人との出会い」
大正フロイデ物語大正フロイデ
副団長 西村 東一

平成十六年のこと、独りのおじさんが区民と「歴史を語る会」を始めます。

そして分かった事は「ドイツ兵の捕虜収容所」が大正区（大正三年当時は西区）にあった事でした。

写真が沢山残り、立派な陸軍省の報告書であるのに、区史の不記載は言うに及ばず一般には殆ど知られてなく、その位置さえ不明だったのです。

その後収容所の内容が明白になるに従い、収容所はまさに日本とドイツの交流の歴史の舞台であった事がわかったのです。

その後は鳴門ドイツ館の訪問や交流、藤井カメラマンとの交誼などにより、平成十八年二月、ドイツ総領事館の協力を得て収容所西側の亥開公園内に「大阪俘虜収容所碑」を設置、その時の田村ドイツ館館長による講演で、本邦

「第九」初演の際の指揮者であるヘルマン・ハンゼンが大正区にいたことが判明。大正橋の欄干の「第九」旋律の偶然

性のこともあって、六月には「大正区第九合唱団」を設立、翌年（平成十九年）二月十八日（収容所閉鎖のその日）に千島体育館で、高谷さんの指揮、エウフォニカ演奏で「第九」初演となりました。

そこに至るには、大正ドイツ友好の会の中道さんと合唱団団長の西風さんの強力な支援、西本さんと熊本さん、角地さん、野上さん、小川さん、西浦さん、岡林さん、多田さんなどの惜しみない音楽指導もありました。

演奏会は今年で五回続いているわけですが、二年目（平成二十年）六月には毎年開かれている鳴門の「第九」に参加、西本さんの娘さんである、世界的な指揮者・西本智実さん指揮で、全国の第九仲間と「第九」を歌いました。

また日本華楽団の龔林（コンリン）さんとも出会い、十月には兵庫県立芸術文化センターで「鑑真頌」を合唱、その翌年（平成二十一年）の十一月には奈良唐招提寺での落慶法要で同曲を披露。

そしてその流れで、平成二十二年五月には上海万博へ出演、琵琶奏者の涂善祥（トウ

ゼンシヨウ）さんとも共演しました。

平成二十二年十二月には西本智実さんの指揮により日本武道館正面席で「第九」を歌いました。

そして平成二十三年九月四日・いづみホールでの五周年記念コンサートでは宗教音楽の大家である五味さんの指揮の下、望月さんのボーチェの支援も得て、モーツァルトのレクイエムを合唱し、第一部ではこれまでのレパートリー曲を西本さんの指揮の下、美しいハーモニーで奏することが出来ました。

当日は区役所、コミュニティ協会、まち案内人の協力や区内企業の協力も見逃せませんでした。

また、広島県の似島からは宮崎さん、「市史編纂所」の堀田さん、ドイツ館から金沢さん、江川さん、ドイツセミナーの桂木さんらも来られ、藤井さんの講演も。

たくさんの方の聴衆のおかげで盛会にかつ福島へ義援金を送る事もできました。

産経新聞・服部さんの翌朝の記事もありました。

大正フロイデは実にたくさんの出会いで成り立っているのです。

今後とも大正フロイデは続いてまいります。将来のあり方を考えた上で、時代に合った、それでいて柔軟で、大正区内で存在感のある合唱団になるよう、一緒に頑張っていきたいと思います。

